

矢垣の弥エ門どんの尻り切り猫が

こないうちにはさつぱり調子が揃わない

しつちよいき しつちよいき

と調子よく踊っていたという。猫が年老いると、化けるといいうことをよくいうが、こんなことを聞けばなるほどとうなずかれる。

私たちが子どものころ、年老いた人から聞いた話である。

(話者 矢田野 小林要作)

与右エ門の化物屋敷

《堀込》

堀込字内屋敷に通称「与右エ門屋敷」と呼ばれている所がある。

その昔、与右エ門という一人の百姓が住んでいた。ある日のこと、与右エ門の家で飼っていた数十羽のニワトリが、一晚のうちに何者かに喰い殺されてしまった。

これは狐のやつ of の仕業にちがいないと、腹をたてた与右エ門は、ねずみに毒を入れ、油でいためて狐の食べそうなご馳走をつくり、今夜もきつとくるだろうと、物かげで今やおそしと待ちかまえていた。

夜がふけ、あたり一面が静かに寝静まったころ、一人の侍が通りかかった。

侍と与右エ門が世間話しをしていると、侍は、うまそうなご馳走があるのを見つけて、与右エ門のい